日本バレーボール学会

2014 バレーボールミーティング

（兼）第25回埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会義務研修会

「一貫指導から求めるジュニア～ユース世代の育成」

会期：2014 年 8 月 17 日（日）
会場：大東文化大学東松山キャンパス
主催：日本バレーボール学会、埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会
後援：公益財団法人埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ指導者協議会
公益財団法人日本バレーボール協会指導者普及委員会
埼玉県バレーボール協会

＜会長挨拶＞

2014 バレーボールミーティング開催にあたって

本バレーボール学会 会長：遠藤 俊郎（大東文化大学）

正に晩夏の節気を迎える中、「2014 バレーボールミーティング」がここ大東文化大学東松山キャンパスを会場として開催されますことは、日本バレーボール学会会長としてこの上ない光栄の極みであり、開催に向けて尽力を頂いた関係各位には衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、本ミーティングは「一貫指導から求めるジュニア ~ ユース世代の育成」というテーマのもと開催されます。

ご承知の通り、我が国の選手強化は、これまで、主に自然に選び出された選手を校種に基づいた各年齢期においてその時々で強化する形で行われてきた経緯があります。しかし、世界の一線で活躍する選手を輩出していくためには、できるだけ早期に選手の才能・資質を見出し、たとえ指導者や活動拠点が変わっても指導の理念や内容が終始一貫した考え方に基づいて、ジュニア期から組織的・計画的に選手を育成していく、一貫指導体制を実現していくことが重要となる、と文部科学省は考えております。具体的には、平成 9 年 9 月の保健体育審議会答申において「一貫指導カリキュラムの策定指針（参考案）」が提示されており、また、文部科学省では、平成 10 年度から新たに、一貫指導システム構築のためのモデル事業を日本オリンピック委員会（JOC）に委嘱しました。これを受けて、JOC では、日本バレーボール協会（JVA）といった各中央競技団体と連携しつつ、1）一貫指導カリキュラム、2）ジュニアの早期発掘システム、3）コーチ・スタッフなどの養成や民間人材の活用、4）確実な資金調達、といった組織強化システムの策定に取り組んできました。（http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199801/hpad199801_2_067.html）

ここで言うところの一貫指導システムとは、「優れた素質を有する競技者が、指導者や活動拠点等にかかわらず、一貫した指導理念に基づく個人の特性や発達段階に応じた最適の指導を受けることを通じ、トップレベルの競技者へと育成されるシステム（スポーツ振興基本計画より抜粋）」（http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/06032711/011.htm）を指しており、これに従って JVA でもこれまで一貫指導システムの構築に取り組んでいます。特に、第4期（2013 年度）運営基本方針は主たる 4 項目挙げられておりましたが、その中で、1）小学生、中学生を中心としたバレーボール競技人口拡大（ゴールドプランの推進強化）に関し、実質的かつ具体的な活動を本会の全組織を挙げて取組む。2）競技人口の拡大、人材の発掘から育成、一貫指導により、2016 年、2020 年のオリンピックを見据えたナショナルチーム強化のための体制を確立する、と「ゴールドプランの推進強化」と「一貫指導の体制構築」に高い優先順位を置いています。

このような状況下において、本ミーティングでは、ＪＶＡにおいてその指導的立場にある亀ヶ谷氏、緒方氏両氏から、それぞれ JVA の「ゴールドプランの推進強化」と「一貫指導の体制構築」の考え方や具体の施策、将来性等に関して話題提供して頂き、さらに飯塚氏、赤木氏には、実際のジュニア、ユース世代の指導に関わってその実情と今後の課題等に言及して頂きます。そして、最終的に本ミーティング参加者全員でバレーボールにおける一貫指導の構築に関わる共通認識を得るきっかけを作ることができるとしたならば、本ミーティングは誠に建設的、示唆的な機会となりましょう。

加えて、特に今回のミーティングは、埼玉県バレーボール指導者協議会（吉田宗弘会長）とも共催で、スポーツ指導者資格更新に必要な義務研修を満たす研修会というという形で実施される 2 回目の試みになります。今後本学会としましてもこのような機会が増えていくことを祈念してやみません。

本ミーティングに参加された方々には必ずや示唆に富んだミーティングになるものと確信しておりますので、是非積極的にディスカッションに参加して頂き、今後につながる何かしらの成果物をお持ち帰り頂けるよう願って止みません。

結びに当たり、多大なるご支援、ご協力を賜りました大東文化大学当局を始め、ご後援いただきました埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ指導者協議会、日本バレーボール協会指導普及委員会、埼玉県バレーボール協会の関係各位には重ねて厚く御礼を申し上げ、会長のご挨拶といたします。

＜会長挨拶＞

埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会 会長：吉田 宗弘

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また本会の活動におきましては、深甚なるご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、このたびも昨年度に引き続き日本バレーボール学会２０１４バレーボールミーティング（兼）第２５回埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会義務研修会として、日本バレーボール学会との共同開催で実施します。

これからのスポーツの普及･推進においては、「スポーツ宣言日本」や「スポーツ基本計画」に謳われているように、「地域」がその主役を担うことが期待されます。各地域のスポーツにかかわる人的・物質的資源を活用してより良い活動を展開することが指導者に求められています。

日本バレーボール学会は、長く日本のスポーツを支えてきた方々や大学の指導者で組織されています。大学や企業にある貴重な資源の活用は、地域スポーツの推進に向けた今後の取り組みの大きな鍵を握っています。社会貢献の視点からスポーツの支援者として、本会と地域・大学等が互いに手を取り合って、持てる力を発揮し合うことで、これまでになかったスポーツ環境を構築して、地域の活力とこれからの時代を担う人達をより良く育むことを狙いとします。

今回の研修会内容は、基調講演では、＜ＪＶＡにおけるゴールドプラン＞「これからの普及と一貫指導について」と題して行います。シンポジウムでは、「一貫指導から求めジュニア～ユース世代の育成」を行います。いずれも著名な元プレーヤーそして指導者を招聘して行います。必ず会員の皆様の今後の指導等にお役にいただける内容と存じます。ご期待ください。

結びに、本研修会に向けた皆様のご協力に感謝申し上げますとともにさらなる飛躍前進が図られますようお願い申し上げます。また皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げまして挨拶といたします。

＜学会役員・実行委員会＞

日本バレーボール学会役員（2012 ～ 2014 年度）

会　長　：遠藤俊郎（大東文化大学）
副会長　：柏森康雄（大阪体育大学）　明石正和（城西大学）
監　事　：島津大宣（JSVR 監事）　藤島みち（夙川学院短期大学）
理事長　：河合　学（静岡大学）
理　事　：石手　靖（慶応義塾大学）　板倉尚子（日本女子体育大学）
小川　宏（福島大学）　勝本　真（茨城大学）
川田公仁（つくば国際大学）　黒川貞生（明治学院大学）
黒後　洋（宇都宮大学）　後藤浩史（愛知産業大学）
小林　海（目白大学）　小林宣彦（都立小川高等学校）
篠村朋樹（木更津工業高等専門学校）　杉山仁志（武蔵丘短期大学）
高根信吾（富士常葉大学）　高野淳司（一関工業高等専門学校）
田中博史（大東文化大学）　徳永文利（国際武道大学）
中西康巳（筑波大学）　橋本吉登（湘南東部総合病院）
濱田幸二（鹿屋体育大学）　廣　紀江（学習院大学）
古沢久雄（かのやスポーツ研究所）　松井泰二（早稲田大学）
湯澤芳貴（日本女子体育大学）　吉田清司（専修大学）

2014 バレーボールミーティング

（兼）第 25 回 埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会（義務研修）実行委員会

研究集会会長　：遠藤俊郎（大東文化大学）
研究集会副会長：柏森康雄（大阪体育大学）　明石正和（城西大学）
実行委員長　：横矢勇一（大東文化大学）
実行副委員長　：明石正和（城西大学）　黒川貞生（明治学院大学）
吉田清司（専修大学）　田中博史（大東文化大学）
上笹淳二（城北埼玉中学・高校）
事務局長　：横矢勇一（大東文化大学）
庶　務　：杉山仁志（武蔵丘短期大学）
会　場　：湯澤芳貴（日本女子体育大学）
受　付　：佐藤亮輔（武蔵丘短期大学）

＜日　程＞

2014 バレーボールミーティング
（兼）第 25 回埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会（義務研修）日程

12：45 ～ 13：30	受付（大東文化大学東松山キャンパス３号館１F）
13：30 ～ 13：40	開会（大東文化大学東松山キャンパス３号館 0201 教室） 挨拶：遠藤 俊郎（日本バレーボール学会会長） 吉田 宗弘（埼玉県バレーボールスポーツ指導者協議会会長）
13：40 ～ 15：40	**第１部　基調講演**（３号館 0201 教室） 「JVA におけるゴールドプラン～これからの普及と一貫指導について～」 司会：田中 博史（大東文化大学）　湯澤 芳貴（日本女子体育大学） 講師：亀ヶ谷 純一（JVA 国内事業本部指導普及委員会委員長） 講師：緒方 良　　（JVA 国内事業本部指導普及委員会副委員長）
15：40 ～ 15：50	**休　憩**
15：50 ～ 17：25	**第２部　シンポジウム**（３号館 0201 教室） 「一貫指導から求めるジュニア～ユース世代の育成」 司会：田中 博史（大東文化大学）　湯澤 芳貴（日本女子体育大学） 講師：飯塚 初義（習志野市立習志野高等学校） 講師：赤木 貴雅（つくばユナイテッドサンガイア）
17：25 ～ 17：30	閉会（大東文化大学東松山キャンパス３号館 0201 教室） 挨拶：明石 正和（日本バレーボール学会副会長）

基調講演　　：JVA におけるゴールドプラン
～これからの普及と一貫指導について～

シンポジウム：一貫指導から求めるジュニア～ユース世代の育成

司　会

田中　博史（大東文化大学教授）

プロフィール

略　　歴：順天堂大学体育学部卒
順天堂大学体育学研究科修了
全日本大学バレーボール連盟科学研究委員会副委員長
関東大学バレーボール連盟女子強化委員
日本バレーボール学会 理事 総務委員長
大東文化大学女子バレーボール部 監督

研 究 分 野：バレーボールコーチング、ストレス科学、高気圧環境医学

著書論文等：・Volleypedia バレーペディア 2012 年改訂版（2012）
・Enjoy Volleyball Vol. 1～2・DVD（2010）
・バレーボールコーチ教本 公認バレーボール上級指導員・上級コーチ用（2005）
・プライオメトリックトレーニングが試合期の大学女子バレーボール選手におけるジャンプ能力に及ぼす影響（2014）
・バレーボール選手におけるコンディショニングツールとしての酸素カプセルの有用性に関する検討（2013）

湯澤　芳貴（日本女子体育大学准教授）

プロフィール

略　　歴：東京学芸大学教育学部卒
東京学芸大学教育学研究科修了
全日本大学バレーボール連盟科学研究委員
全日本大学バレーボール連盟科学研究委員
関東大学バレーボール連盟女子強化委員、指導普及委員
日本バレーボール学会 理事
日本女子体育大学バレーボール部 監督

研 究 分 野：スポーツ方法学（バレーボール）

著書論文等：・Volleypedia バレーペディア 2012 年改訂版（2012）
・バレーボールにおける連続ポイントに関する研究（2008）
・交換過程からみた女子体育大学生のスポーツ・舞踊支援ニーズに関する研究（2007）
・大学女子運動部における集団の流動性とリーダーシップに関する基礎研究（2006）

＜基調講演＞

講　師　　亀ヶ谷 純一 氏

プロフィール

所　属：明治学院大学教養教育センター教授

略　歴：筑波大学大学院スポーツ科学研究科コーチ学修士
1993 年から明治学院大学に奉職。学生部長、教養教育センター長、キャリアセンター長を歴任される。
　また現在、日本バレーボール協会国内事業本部指導普及委員会委員長も務めている。日本バレーボール協会公認講師、国際バレーボール連盟公認コーチ。

研 究 分 野：スポーツ科学，スポーツ方法学

主な著書論文：

・世界トップレベル・バレーボール選手のスパイク動作特性（2008）
・明治学院大学学生の体格と体力の推移（2014）
・青少年期の運動経験が中高年者の下肢筋力および骨強度に及ぼす影響（2014）
・ブロッカーのポジショニングがコンビネーション攻撃のディフェンスに及ぼす効果（2013）

講　師　　緒方　良 氏

プロフィール

所　属：三晃金属工業株式会社

略　歴：駒澤大学卒業後，新日本製鐵株式会社入社
新日本製鐵バレーボール部ではオールラウンドなプレーヤーとして活躍され、日本リーグ3連覇を含む4度の優勝に貢献。現役引退後には同部の監督を歴任される。
　現在，日本バレーボール協会国内事業本部指導普及委員会副委員長およびJVA GOLD PLAN副委員長を務めている。

・公益財団法人日本体育協会　上級コーチ
・公益財団法人日本バレーボール協会　公認講師
・全国私立高等学校バレーボール連盟　常任理事
・日本ビーチ文化振興協会　参与

＜基調講演＞

『JVA におけるゴールドプラン ～これからの普及と一貫指導について～』

１．JVA・ゴールドプラン（競技人口拡大プロジェクト）について

近年の少子化やスポーツニーズの多様化を含む様々な社会的変化により、スポーツの競技人口が減少する傾向にある。国民スポーツの中心として地位を築いてきたバレーボールも例外ではなく、近年の競技人口減少、特に若年層（小学生、中学生）の激減は憂慮する事態になっている。

ゴールドプランは２０１２年1月に組織横断型プロジェクトとして中野会長（当時）を筆頭として立ち上げ事業を推進している。組織として指導普及委員会と競技人口拡大委員会・一貫指導委員会（発掘育成委員会）が連携し、競技者の発掘から育成、指導者の育成などの事業や取り組みを通して競技人口の拡大を目指している。ゴールドプランの事業は①発掘②育成③ファンの拡大、の三本柱を中心に構成している。

２０１３年度には選手登録数・チーム数・指導者の数値目標を設定して、目標達成のために指導者講習会・研修会、バレーボール教室、ソフトバレー授業支援、幼稚園・保育園支援事業、モニター依頼等の事業を全国加盟団体・指導普及委員会と連携して推進した。

同年の小学生バレーボールの概況は、競技者数･チーム MRS 登録数は男子が若干増加しているが、女子の減少が目立った。要因は少子化・スポーツニーズの多様化、指導者不足である。

中学生バレーボールは、競技者数・チーム MRS 登録数は男女とも増えている。しかしながら、これは日本中体連に登録している競技者・チームの中の MRS 登録をしていない競技者・チームが MRS 個人登録をしただけで､実際には増加していないことが判明した｡要因分析では中学校にバレーボール部がない、指導者がいない、他の種目との競合、そして少子化による絶対数の減少があげられる。

２．発掘育成委員会（一貫指導委員会）の取り組み

2013 年度より強化事業本部の委員会として、発掘育成委員会が発足した。この委員会の前身である一貫指導委員会の関連事業のあゆみを以下に記す。

- ･1998 年　JOC より「一貫指導構築のためのモデル事業」に選定されてスタート。７競技９種目が選ばれ、ジュニア強化委員会内に小委員会を設立。長身セッター育成計画をスタート。
- ･2001 年　一貫指導委員会発足、各都道府県に発掘委員会を設置。併せて全国各ブロックで中学･高校生長身者発掘育成合宿をスタート。
- ･2013 年　一貫指導教育委員会と変更
- ･2005 年　全国中学生大会実施に着手、男子復活プロジェクトの立ち上げ
- ･2006 年　中学生大会地方大会がスタート
- ･2007 年　貝塚ナショナルトレセンの支援
- ･2009 年　エリートアカデミーオーディション、男子小学生の発掘スタート

・2010 年　全国中学生長身選手発掘合宿スタート
・2011 年　ＪVAの組織改革に伴い、委員会名を「一貫指導委員会」と変更
・2013 年　「発掘育成委員会」に変更

委員会では、２０２０年の東京オリンピックを中期目標に据え、全日本選手の発掘･育成に着手した。これまで進めてきた裾野拡大を目指す事業と並行して、優秀な選手を早期に発掘育成する（Ｉ型事業）の必要性を認識し、現在全国に強力なネットワークを持つ指導普及委員会組織が発掘育成委員会と連携して情報収集を行っている。

３．2014 年度ゴールドプランの課題と計画

1）中・長期計画の作成と事業及び目標数値の再検討
2）MRS 個人登録の推進及びバレーボール競技人口実数の推進
3）小学生・中学生未経験者を対象としたバレーボール教室の推進
4）小学生・中学生の指導者育成と普及
5）小・中学一貫バレーボール教室の推進
6）中学校バレーボール部の減少の現状把握と今後の方策
7）有資格者のリストと活動報告の作成
8）各加盟団体の活動状況の把握および連携事業

４．基本技術統一化の取り組み

全国各地でバレーボールの指導が行われている。その指導方法は指導者の経験や知識に頼っている場合が少なからずある。指導普及委員会では初心者から上級者まで、バレーにおける基本技術は同じであると考えている。小・中・高・大学など、どの指導ステージであっても基本となる技術の指導は同じものであろう。

指導普及委員会では現在、日本バレーボール学会の協力を得て基本技術の統一化にむけ作業を進めている。具体的にはバレーボールゲームでの①オーバーハンドパス②サーブ③トス④スパイク⑤ブロック⑥ディグについての基本的な指導の要点を整理することを目的としている。

＜シンポジウム＞

講　師　　飯塚 初義 氏

プロフィール

所　属：千葉県習志野市立習志野高等学校

略　歴：1980 年より松戸東高校で指導を始め、インターハイへ３度導く。

1992 年から市立松戸高校に赴任．インターハイ、国民体育大会、春の高校バレーといった全国高校３大会に出場。2006 年に現在の習志野高校に赴任し、翌年よりインターハイ、春の高校バレーに連続出場中。また、国民体育大会にも千葉県選抜チームを６年連続率いており、2009 年の新潟国体では千葉県少年男子チームを初優勝に導く。

「ユース世代における指導について」

１．人間性の育成

高校スポーツの指導者として、選手の人間性の育成に重点をおくことは、あたり前のこととして伝えられてきています。しかし、私は２０歳代のとき、人間性の育成という名のもとにガチガチに選手を管理している指導者を見てきてとても違和感を感じました。選手が指導者の目標達成のための道具のような印象を受けました。その反動もあって若いときは技術指導に重点をおいて、コートの中だけの厳しい指導に徹してきました。ですから多少学校生活がいい加減な選手でも技術優先の選手起用をしてきました。

しかし、そのようなチーム作りをしていた時代には次から次にいろいろな問題がチームに襲ってきました。また、生活面がいい加減な選手は、試合での大事な局面でミスをするのです。高校生には沢山の誘惑があります。そこで普段の生活習慣がその選手のプレーに明確にあらわれることを痛感しました。人間性の育成イコール選手を厳しく管理するのではなく、私なりの人間性の育成（マナー、振る舞い、表情、目標に向かってのひた向きさ等）に重点をおいた指導を追及しております。習志野高校に赴任して９年目になりますが、ここ数年千葉県内の大会においては安定して結果を出しているとともに、大学に進学してバレーを続けて活躍している選手も多く、うれしく感じております。バレーボールの一貫指導というテーマの中に、どの年代においても人間性の育成という考え方は大切ではないかと思います。

２．技術面のこだわり

ファーストレシーブ（レセプションとチャンスボール）の処理の精度とブロックには、とても重点をおいて指導しています。特にレセプションは、小学校年代からボールに触れている選手は精度が高いです。

やはり神経系が一番発達する時期にどんどん難しいボールコントロールを要求すべきだろうと思います。

全国レベルのチームは、レセプションの精度は高く普通にセッターに返球できます。そこでどこで差がつくかはブロック力です。ブロックはチームによって特徴があります。ブロックは、高校に入ってから教わる選手がほとんどです。中学校で指導されている選手はほとんどいないです。

ですからブロックのステップ、手の出し方は実戦で通用するようになるまで1年間はかかります。

３．経験（キャリア）を積ませる環境

技術的な一貫指導ももちろん大切なウエイトを占めていると思いますが、その年代においての一番大きな大会に出場し、できれば優勝経験を積むことが次の世代での活躍に大きく関わってくるものだと思います。習志野高校には毎年千葉県の中学生の選抜メンバーが入学してきてくれています。ですから、千葉県内の大会においては、もちろん負けられないというプレッシャーはあるものの最終的には落ちついてプレーしているようです。結果、関東・全国大会を経験することができます。

しかし、中学時代に勝てなかった相手と関東･全国大会で対戦すると実力的に変わらない相手であっても力を発揮できないことがよくあります。この年代から海外のチームとどんどん交流試合または国際大会を肌で感じられる環境を作ってあげられると次の世代に繋がっていくものだと思います。

４．魅力あるチーム作り

・コーチングスタッフの充実

信頼できるトレーナーの存在がチームを支えています。中学生のときから大学になっても治療してもらっている選手もいます。故障している選手の練習メニューはトレーナーの判断で決定します。メンタル面のケアもしてくれています。

・スカウトの大切さ

全国レベルのチーム経営には、最も重要で最も難しい役割です。監督にとっての一番力量が試されるものです。優秀な選手はチームメイトにはもちろん指導者も育てられていい影響を受けることが多い。技術的にも優秀な選手は目標意識が高いため日々の練習においてもとても大切な存在になります。

・進路指導

選手の特性・能力・将来の職業観・保護者の考えを考慮した上で一番あっている進路先を実現させてあげることが大事だと思います。そして大学に進学をするのであれば4年間バレーを続けて活躍してくれることが本人にとっても充実した人生が歩めると思います。

さらに大学側との信頼関係ができ後輩の進路指導にも繋がっていくものだと思います。また、責任をもって中学校からお願いして預かった選手ですので、中学校の顧問の先生との信頼関係にも繋がります。

・応援の力

習志野高校には、強力な応援団がいます。春高バレーでもお馴染みになっています吹奏楽部を中心とした応援が高校バレー界には毎年話題になっているかと思いますが、ここで応援力が選手にとってどれだけ影響力があるかお話したいと思います。

＜シンポジウム＞

講　師　　赤木 貴雅 氏

プロフィール

所　属：つくばユナイテッドサンガイア 理事

略　歴：静岡県出身、筑波大学体育専門学群卒業

　つくばユナイテッドサンガイアがVチャレンジリーグに昇格した 2006 年度からの所属選手であり、2007～2008 Vチャレンジリーグではサーブレシーブ賞を受賞。

　現在は、総合スポーツクラブの運営の一環として、ジュニア及びジュニアユースを対象としたバレーボール教室を実施。つくば市を中心にバレーボールの普及活動に努めている。

「つくばユナイテッド Sun GAIA の活動事例と今後の施策」

　つくばユナイテッド Sun GAIA では、つくば市内の体育館を拠点とし、現在幼稚園児～中学生約 130 名の登録生を持つバレーボールクラブを運営しています。以下、その中で行われている指導事例とその成功への考え方をご紹介いたします。

１．バレーボールの普及

・一貫指導のスタートは、まず子供がバレーを始めるということ。

・なぜ子供はバレーを始めるのか?なぜ始めるべきなのか?他の種目よりどこが優れているのか?

２．導入期の重点指導内容

・トップレベルの選手になるための最低条件は?

（フォーム、賢さ、運動能力、コミュニケーション能力、etc…）

・将来性を見出す人格形成

３．中学校バレーの現状とニーズ

・つくば市をはじめとする茨城県中学バレーと Sun GAIA の関係

・中学生とその保護者が求めているもの

４．クラブとしてのメリットとデメリット

・V リーグ選手が指導者としての一面を持つことについて

・学校外で練習するということについて

・幼稚園～中学生の一貫指導（教育）の成功と失敗、今後の展望